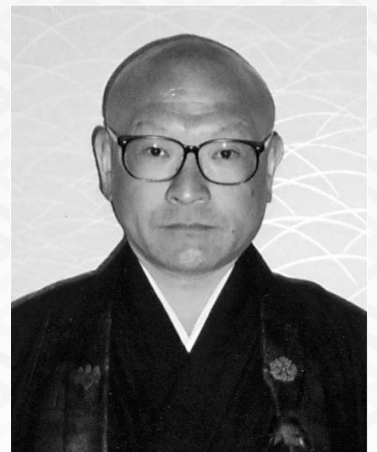


紙上法話

自らの行いは止まらせず

センター布教師 長徳寺住職 河谷正也



私が住職をさせていただいている長徳寺は、平成十八年の暮れに檀家の方々が利用される会館と住職が居住する庫裡が完成しました。前の住職が計画を発案してから二十数年が経つてのことでした。今思えば年号が平成になってから台風や豪雨などの災害で、本堂屋根の総吹き替えなどの復旧工事が続き、会館の建築どころではありませんでした。そのような状況の中でもこのことは総代会の度に懸案事項として確認をして頂いておりました。そしてついに二十一人からなる建設委員会が立ち上がり具体的にことが動き始めました。委員会解散までの六年間、実に七十八回の集まりがありました。恐らくこの回数は他のお寺様の場合と比べると多い方だと思います。たくさんの難題を抱えながらも一つずつ協議を重ねていき、無事にこの事業を成し遂げることができました。

「箸よく盤水を回す」という言葉があります。たらいの中に水を張り、その真ん中を箸で回し続けると、周りの水が少しずつ動き出し、そして大きな渦になるという、小さな努力でも続けていれば何時か大きな力となるという訓えです。私はこの言葉を、国際ボランティアを熱心にされていたある老師から二十数年前に教えて頂きました。初めは理解者が少なくとも断念せずに活動を続けていけば協力者も徐々に増え、そのうち大きな動きになっていくということでした。

会館の建築についても、私自身、会議の多さに計画が頓挫する

のではないかと思うこともありませんでしたが、とにかく微力ながら箸は回し続けることに決めていました。そのような中で、建物のことについて聞きたいことがあるとき、たまたまその分野の方がお参りに来られたりとか、計画が前に進むためにかのような不思議な出来事がたくさんありました。前の住職の思いから始まり、様々な人々の輪が少しずつ広がっていき、時間は掛りましたが建物の完成をみることができました。正直なところ竣工したことは嬉しいことには違いありませんが、そのことよりも、この事業に拘わられた方々とのご縁に大いなる喜びを感じました。現在出来上がった建物は既に風化が始まっています。できるだけ多くの人々に活用して頂きたいと思っています。

日々の生活の中で、記憶だけを頼りにしたり、または先のことばかりを気にしすぎたりすることもあります。しかし、言うまでもなく昨日までは過ぎ明日は来るかどうかも分からないという、今しかないというのが現実です。ですから、今の行いを修めることに重きがあります。また、楽なことでも辛いこともありすが、本日只今の行いができていることに感謝できていれば、気が付かなくても心は自然と安らかなものになっているものだと思います。

人はそれぞれいろんな事情を抱えていますすが、今この瞬間、その人なりの箸を回すことが貴いことです。